

# 「次世代の情報セキュリティ政策に関する研究会」報告書(案)のポイント

2008年7月2日

## 【背景】

- ・ ICTは社会経済活動の基盤であると同時に、我が国の成長力の鍵。
- ・ 一方で、情報セキュリティの脅威は常に変化。昨今では、ネットワークを經由したウイルス感染等が巧妙化・悪質化、さらに被害が深刻化。こういった脅威の変化に対して継続的な対策が必要。
- ・ 今後も情報通信技術は進展し、3年から5年といった近い将来においても、次世代ネットワークの展開、次世代無線通信システムの実現、地上デジタル放送への全面移行等が見込まれる。こうした今後のICT環境における情報セキュリティ上の課題の明確化が必要。



## 「次世代の情報セキュリティ政策に関する研究会」の開催(総務省:2007年10月～)

- ・ 座長：安田 浩 東京電機大学 未来科学部 教授
- ・ 座長代理：中尾 康二 KDDI(株) 運用統括本部 情報セキュリティフェロー
- ・ 構成員：電気通信事業者、家電メーカー、情報セキュリティ対策事業者、法律家等から計28名で構成
- ・ 開催状況：2007年10月から2008年7月までの間に、10回の会合を実施  
2008年4月、中間報告書を作成 → パブリックコメントを実施  
2008年7月、報告書とりまとめ

【昨今のICT環境における情報セキュリティ脅威】

- ◆ マルウェア感染手法等の巧妙化・高度化
  - 犯罪の組織化
  - 正規のWebを閲覧しただけで、マルウェアに感染
  - 特定の組織をターゲットにしたスパイ型メール等、ソーシャルエンジニアリングの高度化、被害の局所化
- ◆ 利用者は、ボット等によって踏み台にされると、被害者となると同時に、加害者となる可能性 など

【近い将来(3-5年後)のICT環境の変化】

- ◆ 情報家電等、様々な情報通信機器がネットワークに接続、利用者も増加
  - 数の爆発的増大
- ◆ 様々なICTサービスが提供
  - 流通する情報の種類、量が増加
- ◆ OS等のソフトウェアの共通化、通信経路の多様化等により、被害が広域化する可能性
- ◆ 新技術の導入により、想定していない脅威が発生する可能性 など

- ◆ 引き続き、利用者による情報セキュリティ対策の徹底が必要
- ◆ 一方で、利用者個人に全ての対策を委ねるのも難しい
  - 「永遠のビギナー」の存在

「永遠のビギナー」とは、情報セキュリティ対策に対する意識やスキルが必ずしも高くないと考えられる利用者

国、電気通信事業者、サービス提供事業者、機器製造事業者等、全ての関係者が連携した情報セキュリティ対策を強化することが必要

重点的に検討・実施すべき主な項目は、次頁

## 【重点的に検討・実施すべき主な項目】

### ○ 利用者を取り巻く環境における情報セキュリティ対策の徹底

(電気通信事業者)

- ・利用者が無意識にマルウェアを配布するサイト等にアクセスすることによるマルウェア感染を未然に防止するため、信頼性の高い「危険なWebサイトに関するリスト」(レピュテーション・データベース)の構築・運営方法を実証し、当該データベースを利用した効果的な感染予防対策を検討
- ・電気通信事業者が取り得る情報セキュリティ対策等の行動規範の明確化について、諸外国の状況を踏まえながら、引き続き検討

(政府等)

利用者における対策徹底に向けた、継続的な普及啓発

(その他)

マルウェア感染等により不具合が生じた場合に、迅速に対処するためのユーザーサポート体制の充実

### ○ 業界横断的な検討体制の整備

電気通信事業者、サービス提供事業者、端末機器製造・販売事業者、情報セキュリティ対策ベンダ等が業界横断的に参加し、情報セキュリティ脅威等に関する情報共有、連携した対策の検討等を継続的に実施する体制を整備

## ○ 安心・安全なグローバルICT環境の実現に向けた国際連携の推進

各国の取組み状況・法制度・体制等の調査や、標準化活動等の動向把握を図りつつ、リージョナル／バイの枠組みを活用し、以下の観点から、具体的・実効的な国際連携を推進

### 利用環境の整備

- ・我が国の先進的な取組みを国際的な共同プロジェクトとして展開
- ・海外からの脅威を未然に防止し、我が国の安心・安全なICT環境の整備を促進

### 事案対応能力の向上

- ・政府から民間までの各レイヤーにおける国際的な情報共有スキームの整備・強化に向けた取組みの推進

### 国際競争力の強化

- ・先進的な技術開発について、国際標準化や共同実験等を通じて国際的に広く展開

## ○ 産学官連携による先進的な研究開発の実施

- ・ボット等マルウェア感染手法の巧妙化等への対策
  - ・暗号・認証技術等の基盤的な研究開発の充実
- など